

- P.1 総会・学術集会のお知らせ
- P.4 研究室紹介
- P.9 事務局からのお知らせ

第54回日本臨床分子形態学会総会・学術集会のお知らせ



第54回日本臨床分子形態学会
総会・学術集会

会長 北岡 隆

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
眼科・視覚科学教室

この度第54回日本臨床分子形態学会総会・学術集会を西洋医学発祥の地である長崎で開催させていただくことになりました。長崎大学が主管させていただく本学会は2001年の雨宮次生教授（眼科学）、2015年の小路武彦教授（解剖学）に続いて3回目になります。

西洋医学といえばシーボルトが有名です。シーボルトは1823年に来日し、鳴滝塾を開設し、高野長英らが塾生として参加していましたが、日本地図を持ち出そうとしたことで国外追放になりました（シーボルト事件）。因みにシーボルトは日本に散瞳薬を伝え、眼科手術器具も持参しており、眼科を得意としていたようです。しかし実際に系統的に西洋医学の教育がなされたのは1857年に来日したオランダ人軍医ポンペによるもので、医学伝習所を設立し1859年

には解剖学実習を行っています。このような西洋医学発祥の地で3度目の日本臨床分子形態学会総会・学術集会を開催させていただけることを大変嬉しく感じております。日本臨床分子形態学会の理事・評議員・会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

本学会は基礎と臨床の研究者が一堂に会する稀有な学会であり、貴重な意見交換が行える場です。ところがコロナ蔓延の影響で2年間現地開催が行われておらず、今回3年ぶりに皆様と現地でお会いできるのを楽しみにして現地開催すべく準備しております。

特別講演ですが、藤本豊士先生（順天堂大学・大学院医学研究科 特任教授）と小路武彦先生（長崎大学研究開発推進機構 特命教授）にお願いしております。お二人とも長く解剖学会を牽引されてこられたこの分野の泰斗であります。藤本先生には「核内脂肪滴の形成機構と生理的機能」というタイトルで、小路先生には「生命規範の新たな展望：エピゲノムによる文化制御と人為操作」というタイトルでお話いただきます。両講演ともにお二人のライフワークがテーマで、示唆に富む興味深いお話が聞けると期待が膨らみます。今回安澄記念賞受賞講演を福本学教授（国立研究開発法人 理化学研究所革新知能統合研究センター 客員主管研究員・東北大学名誉教授）にお願いしております。福本先生は昨年度の安澄記念賞を受賞しておられますので、是非この機会にまとまったお話をお聞きしたいと思い企画いたしました。「トロトラスト症内部被ばくがんから福島第一原発事故被災動物まで」というタイトルでお話いただきます。シンポジウムは肝・胆・膵領域で「肝胆膵疾患病態研究のカットニングエッジ」、産婦人科領域で「産婦人科領域の分子形態学の最前線」、皮膚科領域で「皮膚の形態学」、神経・感覚器領域で「視覚と脳の微細構造と機能」の4つを用意しており、いずれも他領域の研究者にとっても非常に参考になる内容を中心としています。また教育セミナーとして「組織細胞化学が拓く基礎・臨床研究の将来展望」を予定し、基礎・臨床の架け橋となる内容となっています。

今回の学術集会のテーマを「境界を超えて -Beyond the Boundary-」といたしました。研究の限界と思い込みがちな境界を超え更なる高みを目指すこと、基礎と臨床の垣根を超えて・臨床各科の垣根を超えて学祭的なディスカッションを行える場を提供することといった期待を込めています。久しぶりの現地開催です。学会場で境界を超えていけるような熱い質疑応答を期待しております。

今回の会期は11月で、例年9月～10月に開催される本学会としては約1か月遅くなります。しかしその分、長崎の海の幸は旬を迎え皆様に堪能いただけるものと思います。養殖フグでは日本一の漁獲高を誇りますし、高級魚のクエも旬を迎えます。長崎はお酒のイメージが薄いかもしれませんが、むぎ焼酎の最高峰である「壱岐ゴールド」、日本酒も「杵の川」や「六十餘洲」などのオーソドックスなものから「横山50」や「飛鷹」など最近人気の高くなったものまでいろいろとあります。食も是非お楽しみください。さらに長崎は日本で初めての国立公園である雲仙に「雲仙・小浜」の名湯があり、すぐ隣には美人の湯「嬉野」温泉があります。学会の前後にリラックスしていただければ幸いです。

今回是非懇親会を開催したいと思っています。まだまだコロナの流行いかんでは不透明ではありますが、ご期待ください。

写真のゆるキャラは「いしやっこちゃん」という長崎大学大学院医歯薬学研究科のマスコットキャラクターです。今回特別講演をお願いしている小路武彦教授が研究科長の時に肝煎りで作成したものです。

悲願の長崎新幹線も9月23日に開通し、美しい新幹線車両「かもめ」で是非ご来崎ください。「いしやっこちゃん」とともにスタッフ一同長崎でお待ちしています。



研究室紹介

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

眼科・視覚科学分野のご紹介

長崎大学眼科学教室は長崎県の眼科診療の中核として、眼科の臨床、教育、研究を担っています。長崎での眼科学の歴史はシーボルトの来日に遡ります。1824年（文政7年）に鳴滝塾を開設したシーボルトは、眼科にも造詣が深く、散瞳薬や西欧の眼科手術器具を用いて白内障手術を行いました。長崎大学医学部の開学の祖であるポンペは、1861年（文久元年）からは眼科学の講義も始めました。ポンペの後任のボードウィンも、検眼鏡その他の新しい器械を持ち込み、日本の眼科診療の発展に貢献しました。

当教室は12代の教授によって受け継がれている、伝統のある教室です。6校ある官立医科大学の一つが長崎に設けられたのは、1888年（明治21年）でした。当初から日本の医学を支えてきた長崎大学医学部は、1945年（昭和20年）8月原子爆弾により壊滅的な被害を受けました。眼科学教室でも教授や多くの医局員が逝去しましたが、その後眼科学教室の医局員の尽力により戦後復興しました。1987年（昭和62年）には雨宮次生が教授に就任し、厳格な研究姿勢のもとで、眼部腫瘍の病理学的研究など、電子顕微鏡での眼科病理学の発展に寄与しました。



初代村上安蔵教授の執刀風景



病院外観

現代の眼科診療で不可欠な「硝子体手術」を早くから導入し、長崎の眼科をさらに発展させてきた北岡隆が、2003年（平成15年）からは教授として教室を主宰しています。早いもので来年には北岡教授就任20周年を迎えます。教室には北岡教授をはじめ優しい人柄の先生が多く、温かい医局の雰囲気の中で、診療、教育および研究体制が充実しております。現在の教室は教授1人、准教授1人、病院准教授2人、助教7人、医員18人（大学院生6人を含む）、国内留学生1人の計29人の体制となっています。関連病院は7施設で、教室から21人の常勤医師を派遣しています。

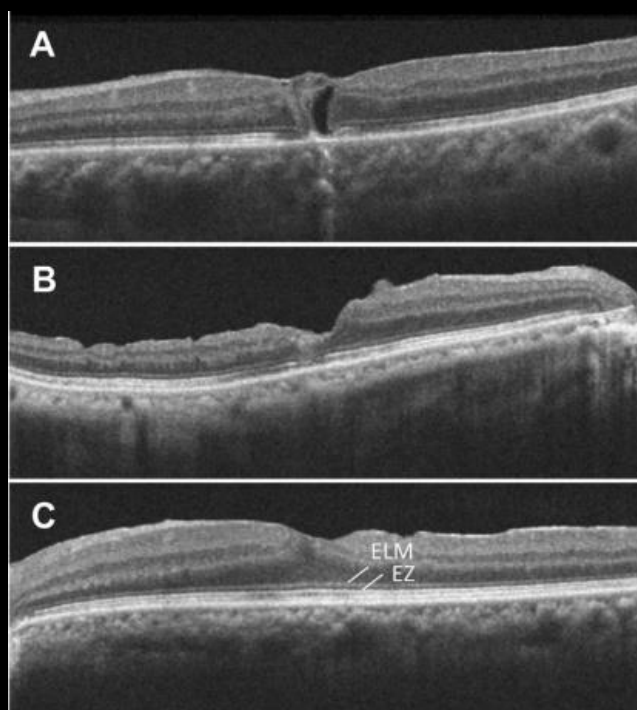
長崎大学病院眼科は長崎県一帯の眼科診療施設と連携しながら、大学病院では主に手術適応のある重症患者の診療を行い、軽快後はかかりつけ眼科で診療するなど、役割分担しながら地域医療に貢献しています。手術は最新の手術装置を多数導入し、最新のシステムで難治症例の硝子体手術等を多数行っています。現在北岡教授は日本眼科手術学会の理事長として、長崎だけでなく日本の眼科手術医療を牽引する立場となっています。当院では硝子体手術の他にも様々な手術を行っており、緑内障手術では近年発展してきている緑内障インプラントを用いた症例も増えています。角膜移植では、日本でも有数の献眼数のある長崎アイバンクから斡旋を受け、すべての症例での国内ドナーを用いています。離島が多く日本の西端の地にあって、オールラウンドな眼疾患の診療が求められる中、すべての眼科専門分野で質の高い眼科疾患の診療を行えるよう、医局員一同努めております。



眼科医局員

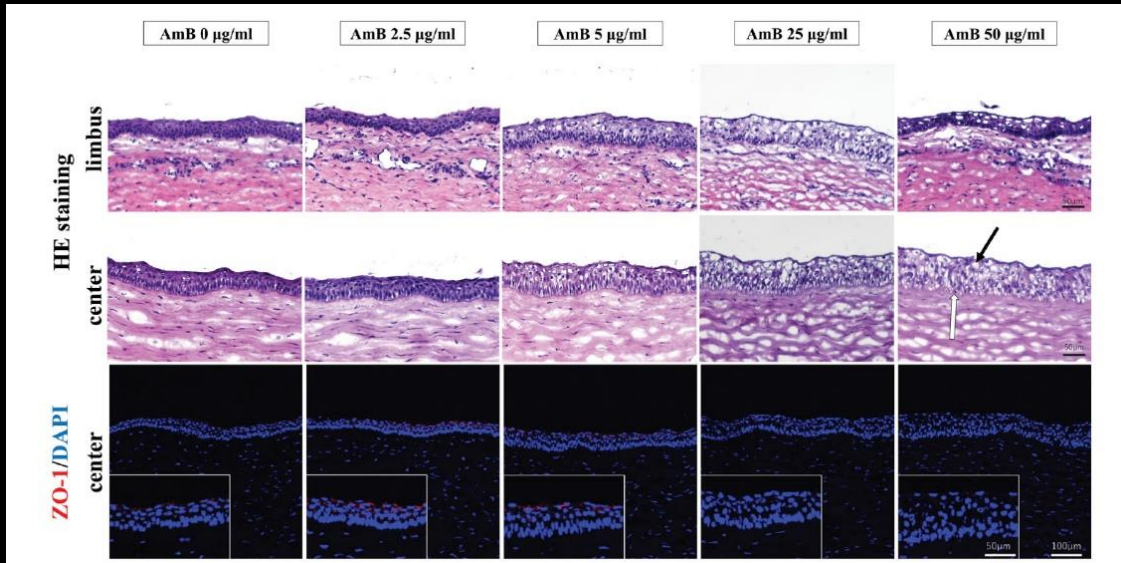
研究では、多くの医局員が臨床的な研究に携わり、光干渉断層計による網膜疾患の形態解析等の研究を行っております。また、臨床と基礎の横断的な研究も、電子顕微鏡等による形態解析を交えて行っています。当教室の医局員による報告をいくつかご紹介します。

中小サイズの黄斑円孔に対する内境界膜フラップ翻転法の効果



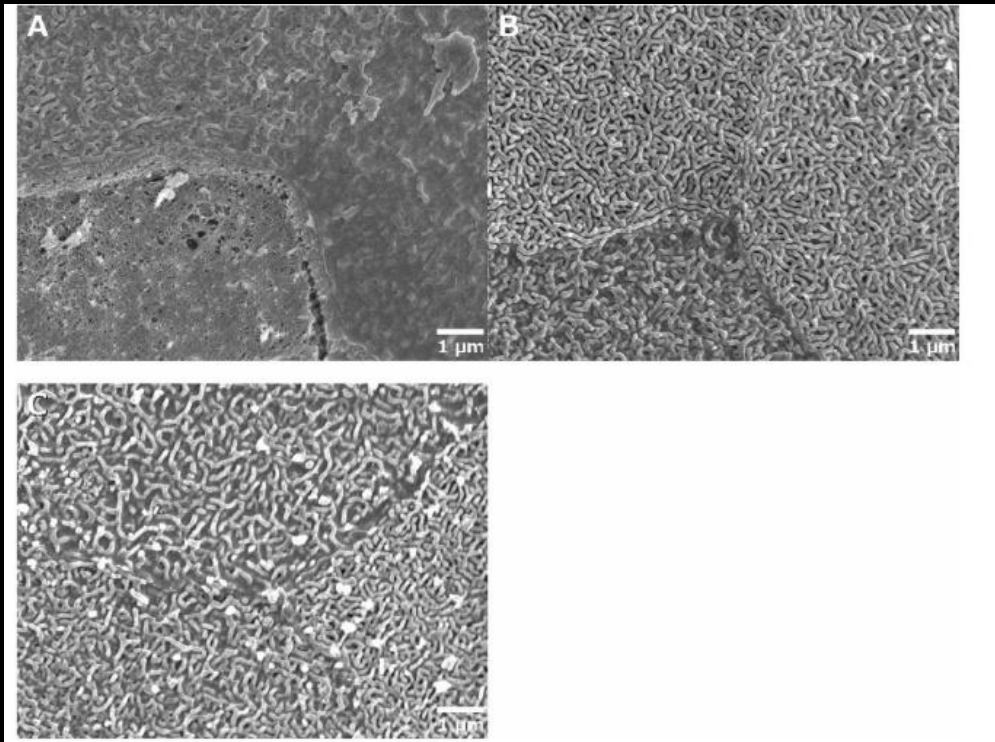
黄斑円孔に対する内境界膜翻転法は、中程度以下の黄斑円孔では、網膜の回復を遅らせる可能性があることが示唆されました。図では黄斑円孔術後の網膜の形態、特に外境界膜と視細胞の形態の回復過程が、光干渉断層計で示されています。(Yamada K, et al. Effect of inverted internal limiting membrane flap technique on small-medium size macular holes. Sci Rep. 2022)

Optisol™-GS に保存されたウサギ角膜上皮細胞におけるアムホテリシン B の毒性: 角膜上皮細胞の形態と遊走能



移植角膜用保存液の抗真菌剤濃度の角膜上皮細胞に対する影響を調査し、アムホテリシンBの濃度が2.5µg/ml で安全に使用できることが示唆されました。図ではアムホテリシンBの濃度5µg/ml 以上でウサギの角膜上皮細胞の形態が変化し、25µg/ml以上でZO-1が消失することが示されています。(Harada K, et al. Toxicity of amphotericin B in rabbit corneal epithelial cells stored in Optisol™-GS: Corneal epithelial cell morphology and migration. Curr Eye Res. 2022)

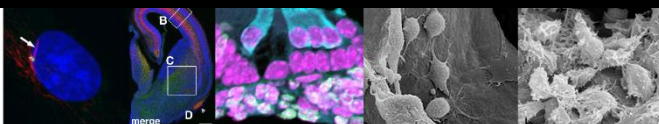
防腐剤含有および非含有ラタノプロスト点眼薬による角膜障害とその回復



ラタノプロスト点眼液では、防腐剤フリーの方が防腐剤含有よりも角膜上皮に対して安全であることが示唆されました。図では0.02%塩化ベンザルコニウム含有の点眼液の投与直後にウサギの角膜上皮が障害され、1日後以降回復していることが走査型電子顕微鏡で示されています。(Inoue D, et. al. Corneal damage and its recovery after instillation of preservative-free versus preserved latanoprost eye drops. *Cutan Ocul Toxicol.* 2020)

事務局からのお知らせ

- ・ HP を随時更新しています
学会 HP を更新していますので、ぜひご高覧ください。
また、イベント情報や、学会情報、相互リンク など
のご要望がありましたら、事務局までお知らせください。
- ・ 9月より順次会費の再請求をさせていただきます。
ご協力の程よろしくお願いいたします。
また、学術集会会場でも入会手続きおよび会費納入手
続きが可能です。



URL <http://jscmm.main.jp/index.html/>